

2023年(令和5年)2月3日 金曜日

# 農薬成分の検出を報告

地下水研究会 市民らと勉強会開く

市内で採取した水道水から微量の農薬成分が検出された件で、宮古島地下水研究会(前里和洋、新城竜一、友利直樹共同代表)は1日、市民や市議、農業関係

者らと勉強会を開いた。友利氏が経過を説明し、その後の継続調査でもネオニコチノイド系とフェニルピラゾール系の農薬成分が検出されていると報告した。同会は「複合汚染の危機。慢性暴露による子供たちの健康への影響が懸念される」と改めて警鐘を鳴らした。勉強会には約30人が参加した。

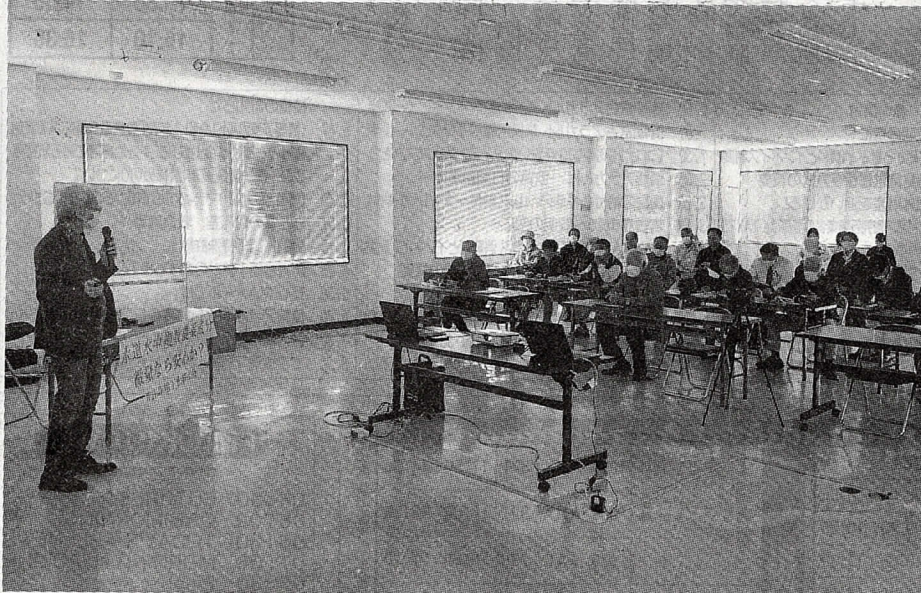
同11月までの調査で、いずれの場所からもクロチアニジン、ジノテフランが毎月検出されており「複合汚染が確実に始まっている」と指摘した。また宮古島市の耕地面積は国内の400分の1にすぎないが、クロチアニジン使用の農薬は全国出荷量の5分の1が供給されていると指摘した。同会は調査を5月まで継続する。

21年の検出後、市が「基準より大幅に低く微量なので安全」としたことについて「安全と安心は、科学的根拠と信頼が必須」と批判。現在の国内基準についても疑問視した。

同会は「複合汚染の危機。慢性暴露による子供たちの健康への影響が懸念される」と改めて警鐘を鳴らした。勉強会には約30人が参加した。

勉強会は「水道水中複数農薬成分、微量なら安全か？」とのテーマで、課題解決のために新しい農業の方向性などを模索する目的で開いた。

調査は2021年、咲田川湧水や保良ガ、平良下里の水道水など計10カ所で行った。主にサトウキビに用いられる農薬の成分が検出された。同会は水道水について22年6月から毎月、平良下里(袖山浄水系)と城辺長間(加治道浄水系)でモニタリング調査を継続し



農薬成分検出の経過を説明した=1日、県農業共済組合宮古支所